

推 進 工 特 記 仕 様 書

1. 一般事項（推進施工概要）

（１）小口径管推進工法 鋼製さや管推進工法オーガ式

施工方法は、先導シュートとスクリュを組み入れた鋼管を順次、溶接接続して掘進する。基準線に沿うように先端シュートの刃先方向をパワーレンチで回転させて、方向を制御する。管内のオーガビットにより掘削し、スクリュにより発進立坑に排土しながら掘進する。鋼管の管長は１ｍとし継手はねじ切り又は溶接による。

（２）さや管内推進工法（配水管）

さや管の推進終了後、油圧ジャッキなどの推進設備を発進立坑内に設置し、立坑内でGX形管を接合し、推進伝達リングを取り付け、油圧ジャッキなどでさや管内を推進させる。このとき、推進中の推力は受口端面と推力伝達リングを介して推進方向に伝達される。GX形管のさや管内推進が完了後、水圧試験を行う。水圧試験完了後、さや管とGX形管とのすき間にエアモルタル等を充填する。

2. 推進用管

（１）さや管は、日本工業規格(JIS)の一般構造用炭素鋼鋼管 JIS G 3444 を使用する。

配水管は、日本ダクタイル鉄管協会規格のGX形ダクタイル管を使用する。

（２）前項推進管の運搬・保管・据付は管に衝撃を与えないよう注意して取り扱うこと。

3. 管の据付

（１）管の押し込みに先立つ山留材の切断にあたっては、地山の崩壊に注意して行うこと。

（２）推進管の接合に当っては、接合部品が移動しないように正しい位置に十分密着させる等きめ細かな作業を行い、管内に侵入水の発生が生じないよう施工しなければならない。

4. 立坑設備

（１）発進推進設備は、施工土質、推進延長等の諸条件に適合した推力を有するものを使用し、管中心位置を中心測量・水準測量により正確に測量して所定の位置に設置すること。

（２）付近の地下埋設物及び架空線に留意しながら、立坑を築造する。

5. 推 進

- (1) 最初の1～2本は誘導管となるものであり推進精度の基本となるので慎重にエア量を調整し、センター高さ及び姿勢などのチェック及び地山の状態を良く監視しながら推進する。

推進中は常に時間当りの推進量を計り土質の変化によりエア量を調整し、また鋼管内の土砂の圧密及び戻り状態を確認しながら必要に応じ排土を行いながら推進する。

- (2) 前項の計測は計画線に基づく上下・左右のずれ等について行い、記録し、監督員に報告書を提出すること。
- (3) 一般構造用炭素鋼鋼管推進時の機械の操作は、熟練した技術者により適切な運用を行うこと。
- (4) 推進作業中は地盤の変形に特に留意すること。
- (5) 推進作業中に異常を発見した場合には、速やかに最適と思われる応急措置を講じるとともに、直ちに監督員に報告すること。
- (6) 推進管は、設計図書に示す高さ及び勾配（水平）に従って正確に布設すること。